

医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読み下さい。

平成18年7月

サンド株式会社

山形県上山市新金谷827-7

指定医薬品、処方せん医薬品

リファンピシンカプセル 150mg「サンド」

日本薬局方 リファンピシンカプセル 使用上の注意改訂のご案内

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、自主改訂により、弊社製品リファンピシンカプセル 150mg「サンド」の使用上の注意事項を改訂致しましたので、ここに謹んでご案内申し上げます。つきましては、今後本剤をご使用されます際には、この使用上の注意に十分ご留意頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

敬白

改訂内容（下線部改訂部分）

改訂後			改訂前			
3. 相互作用 (2) 併用注意（併用に注意すること）			3. 相互作用 (2) 併用注意（併用に注意すること）			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	
<ul style="list-style-type: none"> ・クマリン系抗凝固薬 ・経口糖尿病用薬 ・シクロスポリン、タクロリムス ・テオフィリン ・ジギタリス製剤 ・抗不整脈薬（キニジン、塩酸メキシレチン、ジソピラミド、プロパフェノン、塩酸ビルジカイニド） ・カルシウム拮抗薬（ベラパミル、ニフェジピン等） ・ブナゾシン ・β遮断薬（メトプロロール、プロプラノロール、カルベジロール等） ・マレイン酸エナラプリル ・高脂血症用薬（クロフィブラート、フルバスタチン、シンバスタチン） ・塩酸セビメリン水和物 ・副腎皮質ホルモン剤 ・ジアフェニルスルホン ・クロラムフェニコール ・ドキシサイクリン ・クラリスロマイシン 	これらの薬剤の作用が減弱することがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・本剤の肝薬物代謝酵素（CYP3A4等）誘導作用により、これらの薬剤の代謝を促進し、これらの薬剤又は活性代謝物の血中濃度を低下させると考えられている。 ・酒石酸ゾルピデム ・ゾピクロン ・三環系抗うつ薬（ノルトリプチリン等） ・塩酸ドネペジル ・5-HT₂受容体拮抗型制吐薬（トロピセトロン等） ・タモキシフェン、トレミフェン ・抗悪性腫瘍薬（メシル酸イマチニブ、ゲフィチニブ、塩酸イリノテカン、レトロゾール） ・ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する勃起不全治療剤（クエン酸シルデナフィル、塩酸バルデナフィル水和物） ・ボセンタン ・コハク酸ソリフェナシン 	<ul style="list-style-type: none"> ・テリスロマイシン ・アゾール系抗真菌薬（フルコナゾール等） ・テルビナフィン ・HIV感染症治療薬（ジドブジン、リトナビル、ロピナビル、ネビラピン、エファビレンツ） ・フェニトイン ・カルバマゼピン ・臭化水素酸エレトリプタン ・抗精神病薬（ハロペリドール、ブロムペリドール、オランザピン、フマル酸クエチアピピン等） ・ベンゾジアゼピン系薬剤 （ジアゼパム、ミダゾラム、トリアゾラム等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・クマリン系抗凝固薬 ・経口糖尿病用薬 ・シクロスポリン、タクロリムス ・テオフィリン ・ジギタリス製剤 ・抗不整脈薬（キニジン、塩酸メキシレチン、ジソピラミド、プロパフェノン、塩酸ビルジカイニド） ・カルシウム拮抗薬（ベラパミル、ニフェジピン等） ・ブナゾシン ・β遮断薬（メトプロロール、プロプラノロール、カルベジロール等） ・マレイン酸エナラプリル ・高脂血症用薬（クロフィブラート、フルバスタチン、シンバスタチン） ・塩酸セビメリン水和物 ・副腎皮質ステロイド剤 ・ジアフェニルスルホン ・クロラムフェニコール ・ドキシサイクリン ・クラリスロマイシン 	これらの薬剤の作用が減弱することがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・本剤の肝薬物代謝酵素（CYP3A4等）誘導作用により、これらの薬剤の代謝を促進し、これらの薬剤又は活性代謝物の血中濃度を低下させると考えられている。 ・酒石酸ゾルピデム ・ゾピクロン ・三環系抗うつ薬（ノルトリプチリン等） ・塩酸ドネペジル ・5-HT₂受容体拮抗型制吐薬（トロピセトロン等） ・タモキシフェン、トレミフェン ・抗悪性腫瘍薬（メシル酸イマチニブ、ゲフィチニブ、塩酸イリノテカン） ・ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する勃起不全治療剤（クエン酸シルデナフィル、塩酸バルデナフィル水和物） ・ベンゾジアゼピン系薬剤（ジアゼパム、ミダゾラム、トリアゾラム等）

【改訂理由】

レトロゾール、ボセンタン、コハク酸ソリフェナシンはいずれも CYP3A4 によって代謝されることが報告されております。従って、CYP3A4 誘導作用を有する本剤と併用する場合、これら 3 剤の血中濃度が低下する可能性が考えられるため、「併用注意」の項にこれらの薬剤を追加記載し、注意喚起を行うものです。

なお、改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行の「DRUG SAFETY UPDATE 医薬品安全対策情報 (DSU) No.151」(2006年7月)に掲載されます。